

平成29年度
事業報告書

平成30年5月31日

学校法人YSE学園
横浜システム工学院専門学校

目 次

1.	法人の概要	1
2.	理事会及び評議員会の運営状況	1
3.	学校の概要	1
4.	学生数の状況、就職状況	2
5.	業務達成状況	3

平成29年度事業報告書

1. 法人の概要

平成30年3月31日現在

法人名	学校法人YSE学園
所在地	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128番4
理事長	杉山 勝巳
理事	足立原 泰、酒井 達男、仲久保 正人、中村 伸行
監事	林 宇一郎、八木 一郎
評議員	杉山 勝巳、青木 聡、秋山 恵美子、浅川 佑 酒井 達男、佐藤 登志徳、清水 洋平、富永 英世 仲久保 正人、堀江 明、中村 照栄、馬場 健一

2. 理事会及び評議員会の運営状況

開催年月日	名称	議題
平成29年6月2日	理事会 評議員会	第1号議案 平成28年度事業報告承認の件 第2号議案 平成28年度決算報告承認の件 第3号議案 平成28年度監査報告承認の件 第4号議案 任期満了に伴う役員及び評議員の改選について
平成29年9月21日	理事会 評議員会	第1号議案 今後の学科運営について
平成29年12月12日	理事会 評議員会	第1号議案 設置学科の定員変更について 第2号議案 グローバルITビジネス科カリキュラム追加について 第3号議案 平成31年度の学科設置・廃止について 第4号議案 平成30年度の学則変更について
平成30年3月19日	理事会 評議員会	第1号議案 B号館教室の活用方法の変更について 第2号議案 平成29年度収支補正予算(案)について 第3号議案 平成30年度事業計画(案)について 第4号議案 平成30年度収支予算(案)について

3. 学校の概要

平成30年3月31日現在

学校名	横浜システム工学院専門学校
所在地	横浜市旭区東希望が丘128番4
学院長	杉山 勝巳
総務室室長代理	横山 由美子

教育広報推進室室長	馬場 健一
教育広報推進室室長補佐	福留 孝雄
教務事務室統括室長	佐藤 登志徳
教育指導室室長	中村 照栄
教育指導室室長補佐	富永 英世（兼）
先進IT教育推進室室長	青木 聡
就職支援室室長	杷野 恭久（30.04.01～）
教育設備管理室室長	富永 英世

4. 学生数の状況、就職状況

1) 卒業生数

平成30年3月31日現在

学 科	入学 定員	入学者	進級者	卒業生	内訳_1		内訳_2	
					日本人	留学生	男子	女子
情報システム科	60	43	36	30	10	20	26	4
モバイル・ロボット科	25	8	5	5	5	0	5	0
情報デザイン科	25	9	9	9	9	0	4	5
情報ビジネス科	100	117	104	85	0	85	63	22
合 計	210	177	154	129	24	105	98	31

2) 卒業生就職・進学状況

平成30年3月31日現在

	就職者	大学	専門学校	その他	合計
情報システム科	21	1		8	30
モバイル・ロボット科	4			1	5
情報デザイン科	7			2	9
情報ビジネス科	50		14	21	85
計	82	1	14	32	129

3) 2年次進級者数

平成30年3月31日現在

学 科	入学 定員	入学者	進級者	内訳_1		内訳_2	
				日本人	留学生	男子	女子
IT・ゲームソフト科	40	41	33	14	19	30	3
ロボット・IoTソフト科	20	13	8	5	3	8	0
コミック・CGアニメ映像科	20	7	5	3	2	4	1
グローバルITビジネス科	160	160	134	0	134	115	19
合 計	240	221	180	22	158	157	23

4) 入学者数

平成30年3月31日現在

学 科	入学 定員	入学者	内訳_1		内訳_2	
			日本人	留学生	男子	女子
IT・ゲームソフト科	40	32	12	20	27	5
ロボット・IoTソフト科	20	7	4	3	7	0
コミック・CGアニメ映像科	20	11	3	8	9	2
グローバルITビジネス科	160	190	0	190	140	50
合 計	240	240	19	221	183	57

※ 通信制／ITライセンス科

平成27年4月開設（定員80名/4月入学：20名、10月入学：20名）

在校生 2年次：1名、1年次：7名（平成29年10月入学 1名、平成30年4月入学 6名）

5. 業務達成状況

(1) 経営目標

- ① 地域社会の情報化並びにグローバルな情報化に職業実践的な情報化人材育成面で貢献
⇒神情協との関わりを深め、そこで求められている職業実践専門教育の充実と神情協会員企業を始め地元企業への人材輩出に努めている。
⇒留学生に対する関心の高揚並びに求人ニーズの発掘に努めている。
- ② 文部科学大臣による職業実践専門課程認定校に相応しい職業実践的な情報化人材の育成
⇒職業実践的カリキュラムの下で、産学連携による授業やコラボレーションを取り入れて、実践的教育を展開している。
⇒自己評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を定期的で開催し、ステークホルダーであるIT業界団体やIT企業の声を反映させている。
- ③ 情報公開に耐えられる経営の健全性保証及び教育の質保証
⇒内部監査委員会を設け、業務運営の健全性や教育の質向上の状況をレビューしている。
⇒ISO29990による第三者評価認証校として、前回の審査で指摘された改善要望事項に対応した上で、2018年1月15日、JAMOTE認証サービス(株)によるISO29990認証の定期適合性審査を受け、適合と認証された。
- ④ 教育満足度の向上に向けた教職員の能力開発
⇒教育指導力、担任力の向上に向け、各教員のニーズにあった内外の研修機会を、休業期間中や平時は時間調整しながら活用してきた。平成31年度新設の「AIサービス活用科」の開設に向けては、まず、AI春季研修を行った。（5月より引き続き更なるレベルアップを図るべく研修を続けている。）
- ⑤ ABC戦略の推進 (All Better Change)
⇒業務改善が進みつつある。
会議室・多目的教室等の予約管理ソフト「りざぶ郎」の活用が定着している。
メールの「G-Suite for Education」Gメールへの移行を進めた。
ホームページのリニューアル/PCページ&スマホページ自動切換えを行った。
ネット出願に対応した。
⇒アクティブラーニングを取り入れた授業や教材電子化が進み、教育方法が改善しつつある。

(2) 教育目標

- ① **教えたことを活かしモノづくりが出来るようにする**
⇒学科間交流発表会、卒業制作発表会、YSEフェスタ、コンテスト等の成果により、制作力が着実に身につけていることが確認できた。
- ② **グループ学習などを通してチーム力やコミュニケーション力を向上させる**
⇒さまざまな発表会やコンテストのプレゼン等により、チーム力やコミュニケーション力が向上していることが確認できた。
- ③ **各学科のめざす資格の合格率は専門学校生の平均合格率を上回る**
⇒実学指向の教育と資格取得指向の受験対策教育の両立が求められている。ついては、受験対策教育を実学指向教育の中にしっかり位置づけ、両立できるように努めている。カリキュラムやシラバスの見直しが避けられない。
- ④ **各クラスのドロップ率は10%以内におさえる**
⇒ドロップ率の減少に向けて担任指導を行ってきたが、目標以内に抑えられていない。今後は、授業態度や出席状況の変化の早期把握、アルバイトの仕方についての個別指導やアルバイト管理をタイムリーに行い、減少に努めてゆく。

(3) 教育方法

- ① **4学期生と5学期制の併用による教育**
⇒実学指向の教育を行っている本校の教育方法の特徴の一つである。工業専門課程の4学期制と商業実務専門課程の5学期制の併用により、教育の成果を「見える化」できるように努めている。
- ② **シラバス等の充実**
⇒授業の羅針盤ともいえるシラバスは随時見直しを続け、授業との乖離が生じないように対応している。各期毎に到達目標の明確化と達成状況のフィードバックを行ってゆきたい。
- ③ **授業の活性化**
⇒アクティブラーニングを取り入れた授業が増えている。
⇒学生カルテの作成とその有効活用を図っている。
- ④ **身につけた専門力、思考力、表現力を活かす場として、コンテストを活用している。達成感や勝利体験、入賞体験などにより自信・主体性を育てている。**
⇒神情協 学生ITコンテスト2017 最終選考会
IT・ゲームソフト科 1チーム、情報ビジネス科 1チーム
⇒全情協 ビジネスプロデュースコンペティション最終審査 プレゼンテーション/情報ビジネス科
⇒神専各 外国人留学生日本語スピーチコンテスト/神奈川県専修学校各種学校協会
横浜支部長賞受賞/グローバルITビジネス科
⇒ベトナムフェスタ2017 留学生スピーチコンテスト 予選通過
- ⑤ **産学連携授業や産学コラボレーションも、前記同様の効果は期待できるが、さらに、企業の方の指導を通して、現場の期待に応えられる学びをしていることへの安堵感を植え付けている。**
⇒産学連携授業/情報システム科
⇒職業観を養うための校外学習/IT・ゲームソフト科、ロボット・IoTソフト科
⇒コミュニケーションロボット Pepperの活用/モバイル・ロボット科
⇒産学官コラボレーションによる教育ビデオを作成/情報デザイン科
- ⑥ **就職保証・進学保証のできる指導**
⇒担任と就職指導室の連携によりアウトカムの向上に努めたが、就職指導室担当が兼任であったため、その限界がでてしまった。日本人学生就職率：80%、留学生就職率：68% 専任教員の配置によりアウトカムの充実を図ってゆく。

- ⑦ 先進的な企業やショップ等の見学、スポーツ大会、修学旅行
 ⇒職業観の育成、先進的現場のIT化・自動化の現状等を見学することにより、留学生の日本理解深耕、さらには、日常以上に先生と学生の交流や仲間同士の懇親を深める場として、団体行動経験の場として実施してきた。
 ・クロノゲート/ヤマトグループ運営の集配施設
 ・味の素川崎工場、森永製菓鶴見工場、⇒アンテナショップ
 ・江ノ島水族館、みなとみらい地区/ショッピングモール、赤レンガ倉庫
- ⑧ 発表会の活用により、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、プロジェクト管理能力を磨ける機会を設けてきた。
 ・学科間交流発表会、卒業制作発表会、YSEフェスタ
 ・留学生スピーチコンテスト

(4) 学生募集目標

- ① 工業専門課程各学科の定員充足率の向上
 ⇒大学で実際にアカデミックな学びに向く者は、同年の3割というのが国際社会の常識のようであるが、そのようなことには関わらず、高校間の大学進学競争の激化と少子化による大学全入時代が重なっていることも影響して、高校からの入学者の減少が止まらない。募集活動の範囲を神奈川県内に限定せず、静岡や長野等の一部地域の高校にも広げている。
 一方、本校のホームページから募集しているITライセンス科（通信制）には7名の入学者があったが、定員には程遠い状況である。広報方法に知恵を絞ってゆきたい。
- ② 体験入学等参加者数の確保及び入学率の向上
 ⇒参加者の期待に応えられる体験入学になるように努めてきたが、結果を見る限り、更なる工夫を続けてゆきたい。
- ③ フリーペーパーYSeeye、YSEnews等の広報媒体の充実
 ⇒YSeeyeの取材・発行・配布等を通して、高校サイドの本校に対する理解の深耕に努めてきた。
 ⇒YSEnewsでは、本校の教育活動の一端が見えるようにしてきた。
- ④ 模擬授業
 実学指向の教育を体験してもらう機会として、積極的に受け入れている。
- ⑤ 高校生対象の夏季講座
 ⇒本校を知ってもらう場として神専各主催の「仕事のまなび場」に協力している。
- ⑥ 小学生のためのプログラミング/ロボット教室
 小学生に対する「プログラミング教育」の高まりに応じて、地元小学生を対象に実施した。
 ⇒夏季講座
 ⇒6ヶ月コース
- ⑦ 修学旅行中の小学生に対する体験授業
 ⇒長野県上田市立神村小学校生に対する体験授業を受け入れた。

(5) 同窓会の活性化目標

- ① 同窓会総会
 ⇒平成29年5月28日（日）に開催。平成30年は、5月27日（日）に開催予定。
- ② ⇒同窓会規程第5条（役員）に各卒業年度より3名以内の「代議員」を置くことになった。代議員候補の選任を済ませ、代議員就任を依頼してきたが、就任者は数名の域を出ない。今後も、就任依頼を続けてゆきたい。

(6) 教務事務目標**① 学費等の回収率の向上**

⇒学生の増加に加えて、学費分納者、学費延納者、学費未納者が増えたため、回収負担が大きくなっている。決められたことを守れるように指導や個別面談を行ってきたことにより、回収率は改善しつつある。

② ビザ更新事務の円滑化

⇒ビザ更新は時期的に集中する傾向にあるが、計画的な指導と、新たに用意した「ビザ更新手引き」により、指導が円滑に行えるようになりつつある。

③ 消耗品代節約

⇒複写機の入替え、1台削減、コピー単価の低減と教材の電子化により、コピー代の節約を図ってきた。

(7) 施設の維持・保全・監視目標

安全性を維持し、安心して学園ライフを送れるように施設の維持・保全・監視に努めている。

① B号館屋上のウレタン防水工事

⇒B号館建設以来初となる屋上水漏れ予防工事を行った。

② B号館地下教室照明のLED交換工事

⇒教室の明るさを向上させた。

③ A号館・B号館の定期点検

⇒電気設備点検、エアコン点検、火災報知器点検を行った。

④ 安全対策、盗難予防

⇒B号館掲示板の上部に防犯カメラを設置し、安全対策、盗難予防を行っている。

⇒セコムとの契約を継続し、警備保障を行っている。

⇒非常時災害や自然災害に備え、クラウドデータ保管サービスを利用して、重要データの外部保管を行っている。

① コミック・CGアニメ映像科の廃止

⇒平成30年度入学生の卒業をもって、平成32年3月に廃止する。

② AIサービス活用科の開設

⇒AI人材ニーズの潮流を見据え、他校に先行して開設した。平成31年度生の募集活動を展開中である。日本人学生の減少を反転させる起爆剤にしてゆきたい。

以下余白